

東京都渋谷区が買い手を公募していた公衆トイレの命名権(ネーミングライツ)を取得したアメニティ(横浜市)。「快適さ」を表す社名通り、オフィスビルや商業施設などのトイレを維持管理

躍進企業 in かながわ

アメニティ(トイレ維持管理)



専用機器を使ってトイレ環境を診断する



山戸里志社長

をすることで、区と合意した。トイレ内には事業を紹介するポスターも掲示。「維持管理をしっかりやって、百貨店並みのトイレにする」と山戸里志社長は力を入れる。

「トイレ診断士」は同

《会社概要》

▽本社	横浜市神奈川区羽沢町685
▽設立	1989年12月
▽事業内容	トイレの定期診断、保守点検
▽売上高	9億900万円(2009年6月期見込み)
▽経常利益	5500万円(同上)
▽従業員数	46人

快適さ百貨店並みに

中国本土にも参入にらむ

する。専門知識と技術を持つ社員の適切でわかりやすい提案が強み。防臭剤など関連商品も開発、販売し顧客基盤を拡大。中国進出も検討する。東京都渋谷区の区役所

前公衆便所。「区役所前のトイレ診断士の廁堂(かはやどつ)」の名称とともに、アメニティのロゴマークが入った看板が掲げられ、話題となっている。渋谷区から公衆トイレ策をして定期的に見回り

社最大の特徴である社内資格制度だ。顧客企業のトイレを訪問し、内視鏡や探知管、風速計などで汚れやにおいを測定。項目、社員はトイレにちなんでビジネスネームを名乗る。例えば山戸社長は

「御手洗(おてあらい)会社などの大手企業、公銀三」。ほかにも「セルベッチオ(イタリア語でトイレの意味)中嶋」、「お手水(おちようず)」。顧客に親しみを持ってもらおうと同時に、社員にトイレのプロとして自覚を持ってほしい」という狙いだ。オフィスや商業・公共施設のトイレ空間には電気系統や水回りの設備が集まる。保守点検には専門の技術や道具が必要だが、多くの施設では家庭の清掃の延長でやっているという。同社は「奇麗なトイレをいかに維持するかを顧客を左右する」と説き、技術力を磨いて顧客を拡大。今では飲食チェーンや首都圏の鉄道

時に、においの元となる「尿石」の除去剤や消臭剤を設置し、月一回、交換する。年一回の試験でトイレを訪問し、内視鏡専門知識や技術を磨く。営業の効果を高めるため、社員はトイレにちなんでビジネスネームを名乗る。例えば山戸社長は

「将来は中国本土にも参入する方針。経済成長が続く新興国で新たな需要の取り込みを目指す。山戸社長は「オンリーワン企業として、横浜から海外に打って出る」と、業容拡大に意欲を示す。

神奈川

横浜 045-2201-2555
川崎 044-222-7793